

令和5年度通常総会

開催日：令和5年7月26日

場所：高知県立高知青少年の家

○中嶋会長 どうもこんにちは。暑い中、御苦勞様でございます。

くれぐれも作業する際には熱中症にならないように、気をつけてください。

梅雨は明けましたが、今年も梅雨前線による大雨で全国的に大変なことになってて、高知は割とましだったのかなという感じですが、結構、被害が出てました。

今、全国で、林業が災害を引き起こすことが起きてて、林業による災害が目に見えて分かるようになってきて、それが原因で、もっと災害を引き起こさない手法がないのかということ、今、そういう案件で問合せが、自伐型林業推進協会に来てます。実際に、それが理由で展開を始める地域が増えてきてます。

もう一個、小規模林業というか自伐型林業を展開し始める理由に中山間地域の再生があります。人口がどんどん減ってる。その地域に行けば行くほど、そういう地域ほど森林率が高い、9割を超えてる。その9割の森で、全然就業者をつくれないうことで、集落再生とセットで、地方創生事業として自伐型林業を展開する感じです。

この2年ぐらいの流れですが、林業政策及び中山間地域政策の主の事業、メインの事業に置いてきてくれる市町村がちょっと増えてまして、今、結構その対応でめちゃくちゃ忙しい状態です。そういう地域では、非常に施業に参入してくる人が激増してます。

どういう市町村かという、その市町村が自伐型林業推進に対して予算を措置して、研修をやったり、もう一個重要なのが、山の確保の支援もする。意外にここでふん詰まる人が多いんです。技術は一定持ってきたんだけど、山の確保でなかなか先に進まない。特に移住者は人脈がないので大変です。そこでふん詰まる人が多いですけど、そこを市町村がサポートする。

昨日、九州の市町村が来ていたのですが、結構大きな目標を持ってました。自伐林業者をどんどん地域住民と移住者で増やして行って、10年後に50名から100名にしたい。その地域住民だけで、全ての森林管理をする。施業できる山、ちょっと無理だから切り捨て間伐程度にする山、施業の山林とか、皆伐とかはげ山になってるような山を見回りする。要するに崩壊が起きないか見回りする。

全ての山を放置しないという方針で、1地区目は人数が確保できました。まだ5分の1

ぐらいだけど。それが全地区において、全管理できるような体制までなるかどうか、ちょっと勝負をかけようという話をしてるんです。

そういうのも可能になる。それは何でかという、補助金も自伐林業者、小規模林業の人にも言えますが、今の林業よりは、10分の1、20分の1の金額で十分成り立ってくる。将来は経済的に自立も可能。そういう人たちは増えますから、今の補助金の中でも増えていきます。それで地域で10倍、20倍ぐらいの人数にして、本当に全体の山を管理できるようになる。

奥山の非常に厳しい山が多いところは、なかなかそうはならないと思いますけど、里山に近いエリアの市町村なら、十分可能ではないのかなと思ってまして、そうなるにも、実は今、来てる皆さんが、その市町村において、リーダーとかイノベーターになれるかどうか、先槍になって、どんどん増やしていけるかどうかにかかっていると思います。

残念ながら、まだそこを支援できる、小規模林業推進協議会の体制にはなれてないです。なるにはどうしたらいいか、これから話し合っていないといけないですが、ちょっと時代背景が変わりつつあるなど。災害もあるし、一般住民、都市から田舎へ移住者の中で、かなり林業を意識した形でやる人が、もう10年前とは明らかに変わってきました。もう現場において分かります、全然違います。

10年前に体験研修やっても、ほとんどの人が施業へ参入までしなかったんです。興味本位で来てる感じだけでしたが、最近、体験研修に来る人は、ほんまに施業やるつもりで来てる。

変化に対してどう対応するかというのをいろいろ考えていきたいので、今日はそういう意見もいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。